

—シンポジウム—
Symposia

第 2 回極域気水圏シンポジウム報告

楠 宏*

Summary of the Second Symposium on Polar Meteorology and Glaciology, October 2, 1979, Tokyo

Kou KUSUNOKI*

は し が き

表題のシンポジウムは昭和 54 年 10 月 2 日、国立極地研究所が主催し同所で行われた。このシンポジウムは話題を雲物理学関係にしぼり、プログラムに示されるように「エアロゾル」と「雲と降水」に分けられている。前者は、南極観測隊の気象学の研究観測「南極におけるエアロゾルおよび微量気体成分の研究」が、第 17 次 (1975-77) から第 19 次にかけて行われ、その成果の一部の発表も含まれている。後者は極域観測計画 (POLEX) の中の北極域観測計画が 1979 年から 1980 年にかけて実施される予定となっており、これに関連した話題が取りあげられた。なお、近く行われる予定の中層大気国際共同観測 (MAP) に関連し、南極におけるライダー観測が話題に予定されていたが、講演者の欠席のため中止となった。以下に当日のプログラムと講演のアブストラクトを示す。

プ ロ グ ラ ム

- I. エアロゾル 座長 小野 晃 (名大水圏研)
 1. 昭和基地周辺大気中のエアロゾルの性状について 伊藤朋之
 2. 極域における日射収支の特性 村井潔三
 3. 極地大気での氷晶生成のメカニズム 大竹 武 (紹介: 小野 晃)
コメンテーター: 岩井邦中 (信州大), 田中正之 (東北大・極地研)
- II. 雲と降水 座長 樋口敬二 (名大水圏研)
 1. 極域の雲と放射過程: 北極の夏季層雲 太田幸雄
 2. 北極域・南極域の降雪粒子 菊地勝弘
 3. 北極域の雲と降水の観測計画 武田喬男
コメンテーター: 田中正之, 片山 昭 (気象庁予報部)

I.1. 昭和基地周辺大気中のエアロゾルの性状について

伊藤朋之 (気象研究所)

ソ連、米国の南極基地でこれまでに行われてきた観測結果を検討し、南極大陸上のエアロゾルの特性と起源に関する研究の現状を報告した。次いで、17 次以来 3 次にわたって行った昭和基地を

中心とする大気エアロゾルの研究観測結果について報告した。主な内容は以下のとおりである。

昭和基地では、エアロゾル粒子は夏高濃度、冬低濃度といった、極点やミールヌイで見出された

* 国立極地研究所, National Institute of Polar Research, 9-10, Kaga 1-chome, Itabashi-ku, Tokyo 173.